

都城市議会議長 様

提出日 平成 29 年 8 月 10 日

建設委員会行政視察報告書

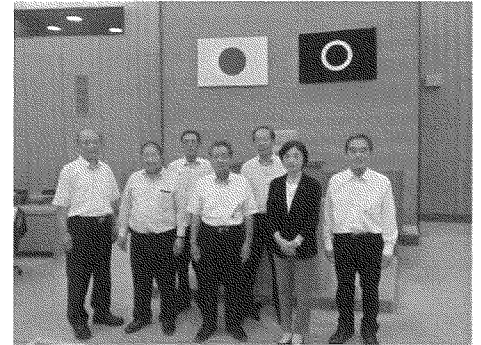
建設委員長 迫間 輝昭

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 委員会名及び視察者

迫間輝昭、佐藤紀子、永田照明、下山 隆史  
神脇清照、相葉一夫、西川洋史

2 視察日程 平成 29 年 7 月 12 日(水)～7 月 14 日(金)



3 視察行程及び視察項目

\*7 月 12 日(水) 群馬県前橋市 14:30～16:00

「空き家対策事業について」

- ・空き家対策に積極的に取り組んでおり、様々な事業(下記参照)を連動させた効果的な取り組みを行っている。

「空き家に関する条例の創設」、「空き家利活用センターの設置」、「空き家利活用ネットワーク事業」、「空き家の活用支援事業」、「空き家を活用した 2 世代近居・同居住宅支援事業」、「老朽空き家等対策事業」など。

\*7 月 13 日(木) 栃木県鹿沼市 13:00～14:30

「官民共同による下水道処理施設でのバイオマス発電事業について」

- ・下水処理の過程で発生する汚泥と併せて食品残渣等を受け入れ、発生するガスをバイオマスエネルギーとして再利用し、発電・売電を行う官民共同事業。市がバイオマスの受入・処理、ガス供給などを行い、民間企業が 2 社がバイオマスの収集運搬、発電設備の運用、電力売却などを手がける。循環型社会の形成はもちろんのこと、下水道事業の財源確保にも寄与。

\*7 月 14 日(金) 千葉県習志野市 9:30～11:00

「水道水の PR 事業 (ペットボトル商品のモンドセレクション受賞) について」

- ・水道水の普及 PR 事業の一環で、水道水をペットボトルに詰めた「ナラシドウォーター」を製作、イベント等での配付や販売を行っている。同商品は、モンドセレクションにて金賞を 2 年連続受賞し、国際的な品質評価を得ており、普及活動への更なる弾みになっている。

# 建設委員会行政視察報告書

迫間 輝昭

平成 29 年 7 月 12 日 水曜日 14:30~16:00

調査項目 ・ 空き家等対策事業について

(空き家利活用センター、空き家の活用支援事業、  
2 世代近居・同居住宅支援事業、老朽空き家等対策事業)

## \*感想として

前橋市の空き家対策事業の概要、前橋市は市条例の整備(平成 25 年 7 月~平成 27 年 6 月)を施行。

前橋市空き家等の適正管理に関する条例を施行、25 年 7 月管理不全な状態にある空き家に対し、助言、指導、勧告、命令を実施、ただし罰則や強制力はなし。

27 年 5 月から「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されて、税情報の活用や、過料(罰則)行政代執行などが可能になる、空き家等対策計画について、基本理念、快適な住環境の保全、安全で安心な街づくりの推進、空き家等を活用した、定住の促進、空き家の市場流通の促進で前橋市と不動産関係団体とで「空き家の利活用の促進に関する協定」を締結、27 年 5 月に空き家利活用ネットワーク」事業を実施、他に空き家対策助成制度入として、空き家等を活用した二世帯近居・同居住宅支援事業・リフォーム補助(居住支援、特定目的活用))老朽空き家対策(解体費補助)等の支援があり、空き家の実態調査には前橋工科大学との連携、26 年度に地域課題研究課題として取り組み開始、27 年度に共同研究を開始、実態把握から活用提案まで 28 年度に共同研究の成果を踏まえ実態調査を委託研究し(高崎経済大学とも連携)されて色々と空き家対策に取り組んでおられていた。

## ◎視察の成果及び市政への反映

前橋市では、27 年 5 月から空き家対策等の推進に関する特別措置法が施行されて、税情報の活用や過料(罰則)行政代執行などが可能になる。また、不動産関係団体との空き家利活用ネットワーク事業を実施されて、二世帯近居、同居住宅支援事リフォーム補助等に取り組んでおられるので本市でも参考にしたらよい。



平成 29 年 7 月 13 日 木曜日 13:00~14:30

調査項目 ・官民共同による下水道処理施設におけるバイオマス発電事業について

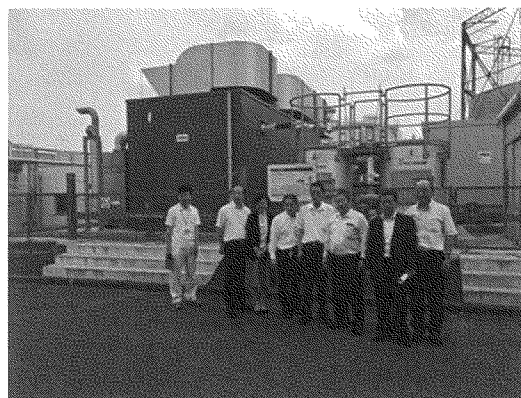
\*感想として

鹿沼市の下水道処理施設は、公共下水道処理施設 4 施設、地域下水道処理施設 1 施設、農業集落排水処理施設 4 施設の合計 9 施設の維持管理をおこなっており、1 日計画処理水量は、5932 立方メートルまた、鹿沼市は官民共同バイオマス発電事業を 2014 年 10 月鹿沼市 2 会社と共同で発電事業を行っており、この事業は 3 者が共同で鹿沼市の廃棄物（し尿汚泥等バイオマス）を下水汚泥と共に効率的に処理し、かつバイオマス発電により、再生可能エネルギーを今後 20 年間にわたり長期的、安定的に創り出す事業の事。

当事業により、これまで焼却処理していた余剰ガスも発電に利用されますので温室効果ガスの削減と併せ、発電用地やバイオガス提供により、下水道事業の財源確保に寄与できるものと期待されていました。今後も本事業を含め、未利用の地域資源を有効に活用した循環型社会の形成に向け各種施策を積極的に推進していくとのことです。平成 28 年度の売電量 90 万 kwh（一般家庭の 230 世帯相当）売電額は 690 万円、その内鹿沼市へ 15% 103 万 5 千円収入になっているようです。

◎視察の成果及び市政への反映

鹿沼市では、官民共同でバイオマス発電事業を 2014 年 10 月より 2 会社と発電事業を行っており、売電額は年間 690 万円、その内鹿沼市へ 15%、103 万 5 千円収入になっておりますので本市でも検討されてもいいと思った。



平成 29 年 7 月 14 日 金曜日 9:30~11:00

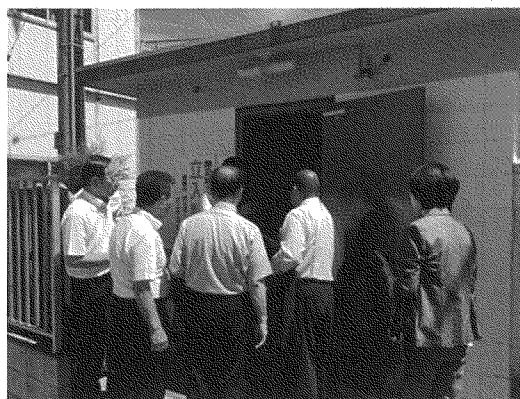
調査項目 ・水道水の PR 事業(ナラシドウォーターの取り組み)について

\*感想として

習志野市企業局の水道水(市営水道)をペットボトルに詰めた「ナラシドウォーター」は市営水道の PR 用としてイベントなどで配布されていて、「2016 年 モンドセレクション」のビール、水、ソフトドリンク部門で金賞を受賞した「ナラシドウォーター」(500 ミリリットル)の販売を始めた。価格は 1 本 100 円(消費税込)市営水道水は企業局所有の井戸 19 本からくみ上げた地下水と北千葉広域水道企業団の水道水をブレンドしている。水の割合は地下水を 65% 北千葉水道企業団の水を 35%ミックスし、その市営水道水を詰めた「ナラシドウォーター」の生産本数は年間 1 万本ほどが、受賞により 29 年度は 2 万 5 千本に増産し、ラベルのデザインを変更している。販売は昨年夏よりお客様からの購入希望の問い合わせを多数いただいた事から、販売を開始し、習志野市では品質が国際的に評価されたことを励みに、より一層「安心して飲めるおいしい水」をつくってまいりますとの事でした。

◎視察の成果及び市政への反映

習志野市企業局水道水をペットボトルに詰めた「ナラシドウォーター」は市営水道の PR 用としてイベントなどで無料で配布されていたが「2016 年モンドセレクション」のビール、水、ソフトドリンク部門で金賞を受賞されたことにより、昨年夏よりお客様からの購入希望があり、販売を開始した。本市水道水は全体地下水であるのでペットボトルに詰めた販売ができるのではないかと思った。



## 建設委員会行政視察報告書

公明党 佐藤 紀子

### ○ 空き家対策事業について

(群馬県前橋市) 平成 29 年 7 月 12 日(水)

#### 1 視察の感想

日本全国で、人口減少や核家族化、既存住宅の老朽化、社会ニーズの変化に伴い、空き家が増加している。特に相続を機に空き家化するケースが多く、放置される空き家が増加している。こうした空き家は、安全性・防犯性の低下、ゴミの不法投棄などによる衛生環境の悪化、景観の阻害など、生活環境を脅かすものとなっている。

群馬県の県庁所在地である前橋市でも、空き家対策は深刻な課題となっている。市内には複数の倒壊危機のある空き家があり、差し迫った問題となっていた。そこで前橋市では、市条例の整備を平成 25 年 7 月と、平成 27 年 6 月に行い「空き家対策の推進に関する特別措置法」の試行に伴い、法と条例との整合性を図るとともに、前橋市の空き家対策をより強力で推進している。具体的には、1 空き家の活用支援事業（空き家のリフォーム補助）2 空き家等を活用した二世帯近居・同居住宅支援事業（二世帯近居・同居住宅建築工事費補助、二世帯近居・同居住宅改修工事費補助）3 老朽空き家等対策事業を実施している。

前橋市では、「とにかくできることはぜんぶやる！」との積極的で熱い思いを持って、空き家対策に取り組んでいる姿勢に感心した。

#### 2 視察の成果及び市政への反映等

前橋市では、前橋工科大学との連携を図り、空き家の実態調査に取り組んでいる。平成 26 年度に地域課題研究課題として取り組みを開始し、平成 27 年度に共同研究に取り組み、実態把握から活用提案を行っている。平成 28 年度には、共同研究の成果を踏まえ、実態調査を委託研究し、建物の危険度や管理状況をデータベース化し、空き家の適切な管理を行っている。このように地元の大学生が、空き家等の実態調査に関わることは、大変有意義だと感じた。

また、平成 27 年 4 月には、空き家相談の総合相談窓口「前橋市空き家利活用

センター」を設置し、窓口を一元化することで、市民の利便性を図っている。

平成 27 年 5 月には、不動産関係団体と、「空き家の利活用の促進に関する協定」を締結し、7 月には「空き家利活用ネットワーク」を開始するとともに、空き家対策補助金制度も導入している。行政と民間が連携し、民間力を活用することで、行政は市場の情報を利用でき、事業者は市民や市の動向を知ることができ、大きなメリットがある。

特定空き家等対策についても、平成 28 年 7 月には県内で初めて略式代執行による特定空き家等の撤去を実施するなど、積極的に取り組まれている。

このような前橋市の空き家対策について研修させていただき、本市においても政策提言し、市政に反映させていきたいと思う。

## ○官民共同による下水道処理施設でのバイオマス発電事業について

(栃木県鹿沼市)平成 29 年 7 月 13 日(木)

### 1 視察の感想

鹿沼市では、官民共同による創エネルギー・廃棄物処理事業に取り組まれている。この事業は、未利用の地域資源と再生可能エネルギーの利活用による「次世代につなぐ環境の保全と循環型社会の形成」を目的とし、民間資本や民間のノウハウを活用し、効率化や公共サービスの向上を目指す手法による官民連携の事業である。

鹿沼市最大の下水処理場である「黒川終末処理場」にバイオガス発電設備を整備し、平成 27 年 6 月から発電を開始し、平成 28 年度以降から地域のバイオマス受入・混合処理を開始し、段階的に廃棄物の処理量および創エネルギーの量を増やしていくという事業である。

また、再生可能エネルギーの固定買取価格制度（FIT）を利用した 20 年間の発電事業をベースとすることにより、廃棄物の安定処理とバイオマス資源から、電気・温水の創出を実現するものである。

本事業では、まず、黒川終末処理場においてバイオガス発電設備を整備し、一般家庭の約 250 世帯分に当たる約 90 万キロワットの年間発電量を見込んで事業を開始した。次に、市内で発生する「し尿汚泥」「食品系バイオマス（市内の道の駅、給食センターから収集した食品ゴミ等）」を黒川終末処理場の消化槽で混合処理することで、効率的な廃棄物処理を実現している。年間発電量の将来目標は、約 160 万キロワットで一般家庭の約 450 世帯分である。

施設等にも案内していただき、職員の方や、民間事業者の方からも丁寧に説

明いただき、大変勉強になった。

## 2 視察の成果・市政への反映等

この事業は、これまで焼却処理していた余剰ガスを発電に利用でき、温室効果ガスの削減と併せ、発電用地やバイオガス提供により、下水道事業の財源確保にも寄与できるとされている。また、未利用の地域資源を有効に活用する環境保全や循環型社会の形成につながる事業でもある。

本市において、鹿沼市のような事業を推進するに当たっては、資源が広い地域に分散しているため、収集・運搬・管理にコストがかかり、小規模分散型の施設を考慮せざるを得ないという課題がある。

しかしながら、今後未利用の地域資源を活用した循環型社会の形成に向け、大変参考になる取り組みである。

## ○ 水道水の PR 事業について

(千葉県習志野市) 平成 29 年 7 月 14 日(金)

### 1 視察の感想

習志野市企業局が供給する水道水をペットボトルに詰めた「ナラシドウォーター」は、昨年につき、2017 年モンドセレクション（ビール・水・ソフトドリンク部門）において金賞を受賞している。

「ナラシドウォーター」は、市内の地下水を 65%、北千葉広域水道事業団の水を 35%ミックスし、2009 年から製造し、昨年初めて品質評価の国際モンドセレクションに応募し、金賞に輝いたとのことである。

市営水道の水は、事業開始以来、「安くて、おいしい」との評判で、取水井は、総数 19 本設置され、深さ 180～250m の井戸から質の良い地下水を汲み上げている。水源の約 65%が良質な地下水のため、注入する薬品料も少なく水の味を損なうことはなく、水温が一定していることもメリットである。

「ナラシドウォーター」は、市販はしていないが、平成 21 年から製造し、ガス展などのイベント会場で配布して市営水道の良さを PR するため無料配布してきた。購入希望者が多数出てきたため、販売を開始されるようになった。

試飲させていただいたが、大変飲みやすい水であった。

## 2 視察の成果及び市政への反映

「ナラシドウォーター」は、ラベルに習志野市のご当地キャラをあしらい、PR用として無料配布していた。2年連続の金賞という快挙に、企業局は新しいラベルを作成し、新たに販売をする予定だそうだ。

市民の反応も良く、購入希望の問い合わせも多いそうである。価格は、1本100円で、販売本数は、2千～3千本を見込んで製造されている。ただ、「ナラシドウォーター」は、あくまでも企業局の水道水が、「安心して飲めるおいしい水」であることをPRするためのものだということである。

生産本数は、年間1万本ほどだそうであるが、モンドセレクションの金賞受賞により、2万5千本ほど増産されたようである。

都城市の水道水は、霧島山系の地下水を利用しており、大変おいしい水である。ペットボトルの商品化については、コスト面等課題はあるが、都城市の水道水が「安心して飲めるおいしい水」であることをPRするには、習志野市の取り組みについても行政に紹介したいと思った。



## 建設委員会視察報告書

下山 隆史

### 前橋市空き家等対策事業について

#### 1. 視察の感想

前橋市の空き家率は、平成 20 年度が 13.3%、平成 25 年度が 15.9%と 2.6%増となっており、全国の 0.4%増を上回っている。そのようなことから、前橋市は国に先んじて平成 25 年 7 月に「前橋市空き家等の適正管理に関する条例」を施行。その後、平成 27 年 5 月に「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されたことから、法と条例との整合を図るとともに、空き家対策をより強力に推進することを目的に「前橋市空き家等対策の推進及び空き家等の活用の促進に関する条例」を同年 6 月に施行した。条例の特色としては、市長は特定空き家等となるおそれのある空き家等の所有者に対し、必要な措置を取るよう助言又は指導することや、空き家等が危険な状態になることが切迫し、所有者が判明しない時は、危険な状態となることを防止するために必要な最低限の措置を講ずることができるなどが挙げられる。

空き家等対策計画については、快適な住環境の保全、安全で安心なまちづくりの推進、空き家等を活用した定住の促進を基本理念とし、空き家利活用センターの設置、空き家利用ネットワーク及び空き家等対策補助事業などに取組んでいる。「空き家利活用センター」は、建築住宅課に設置され、空き家に関するあらゆる市民の相談を受ける総合窓口として、利便性が高まっているという。

また、不動産関連団体と協定を結び、「空き家利活用ネットワーク」を開始し、市民から月に十数件の相談があるそうだ。そして、「空き家等対策補助事業」も平成 27 年 7 月から導入しており、補助予算は平成 27 が 2 億円、平成 28 年が 1 億 2 千万円。

補助事業は、二世帯近居・同居住宅支援事業、リフォーム補助事業、老朽空き家等対策（解体費補助）で、人口減少対策も視野に入れ、空き家の利活用と定住促進をつなげている。

本市でも問題となっている空き家の所有者等の特定調査については、まず司法書士など専門家にお問い合わせ事項を出す。所有者が特定されなかった場合、地域性や売れるかどうかを判断して、試行錯誤で一軒一軒あたっているということであった。

また、特定空き家等に対する措置として、平成 28 年 7 月、群馬県内で初めて略式代執行による特定空き家等の撤去が実施された。

#### 2. 視察の成果、市政への反映

人口減少や核家族化、住宅の老朽化などで空き家等が増加し、社会的な問題となっている。本市においても空き家率は平成 25 年で 16.8%と高く、空き家等の中で 65.8%が適正に管理されていない可能性がある。空き家の実態把握については、平成 27 年度に 15 地区自治公民館長へ説明会とアンケート調査を実施し、空き家 3007 棟を抽出。平成 28 年度本庁館内空き家等候補の実態調査を行った結果、1321 棟を空き家等と確定している。29 年度には、総合支所管内を実態調査すると伺っている。多くの対象物件が予想される中、解体費補助やリフォーム補助などは、前橋市のような市民が前向きに考えるような政策の見直しも検討されるよう提案していきたい。

## 習志野市の水道水の普及 PR 事業「ナラシドウオーター」

### 1. 視察の感想

水の安全の確保は水道にとって、最も根本的な課題の 1 つである。習志野市企業局では、良質な水を給水するために、昭和 53 年第 2 給水場、昭和 62 年に第 1 給水場に赤水発生の原因となる鉄・マンガン除去のための急速ろ過装置を設置。また、第 2 給水場は 5,000 m<sup>3</sup>の配水池の建設、配水設備の更新、遠方監視制御システム導入等の更新工事を行い、平成 15 年度より給水を開始している。第 2 給水場には、15m 最上部まで登り、断熱のためのアルミカバーも確認したところである。

水道水の水質、成分については、水源の 65% が良質な地下水のため、中程度の軟水でうまみのあるミネラル分であり、注入する薬品量も少ないので、水の味は損なわないとのことである。そして、水温が一定していて、夏は冷たく冬は温かいのも地下水が多いことのメリットであるという。

この安心して飲めるおいしい水を 500ml のペットボトルに詰めた「ナラシドウオーター」を平成 21 年から製造している。ペットボトルはイベントなどの PR 用として無料配布していた。

ところが、国際的な品質コンクール（ベルギーに本部のあるモンドセレクション）で、2016・2017 年と 2 年連続で金賞を受賞した。それまで年間 1 万本ほど生産していたが、受賞により 2 万 5 千本に増産し、ラベルのデザインも変更。金賞受賞で、購入希望の声が寄せられるようになり、1 本 100 円で販売することになった。販売本数は、平成 28 年度が 2,200 本。

習志野市では、品質が国際的に評価されたことを励みに、より一層「安心して飲めるおいしい水」をつくっていくとのことであった。習志野市の職員の市営水道に対する自信と新しいことへ挑戦する意欲を感じる視察であった。

### 2. 視察の成果、市政への反映

本市も習志野市営水道水に負けない、安心して安全なおいしい水を 1 日平均約 5 万 m<sup>3</sup>配水している。蛇口をひねればいつでも使える水道水であるが、市民が水は限りある資源であるという認識を持ち、有効利用していくためにも習志野市の取組みは評価するものがある。全国で水道水のペットボトル制作に携わっている自治体はいくつかあるが、収益を上げているのは横浜市のみとお聞きしている。本市のおいしい水の PR と、限りある水資源の有効活用のために何ができるか、上下水道局とも話し合いながら研究していきたい。

# 建設常任委員会視察報告

平成29年7月12日～7月14日

委員名 西川 洋史

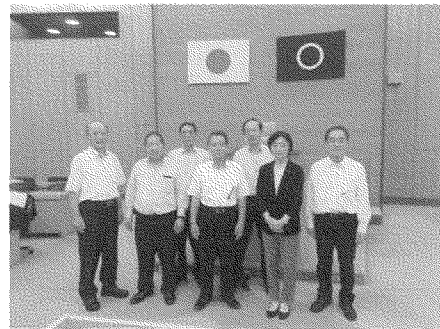
## ◎視察先：前橋市 7月12日水曜日

前橋市は群馬県の中央部よりやや南に位置し、東京から約100kmの地点にあり人口338,127人、市域は311.59km<sup>2</sup>で群馬の県庁所在地にあたる。

### 前橋市の空き家対策について

説明者：建設住宅吉田課長 住宅政策課持田係長  
空き家対策事業対策事業の概要

市条例の整備（H25、7・H27、6）



前橋市議会会議場にて

### 条例の特色

事業者の責務・市民の責務 特定空き家等以外の所有者への助言指導 所有者不明な空家等に係る緊急応急処置

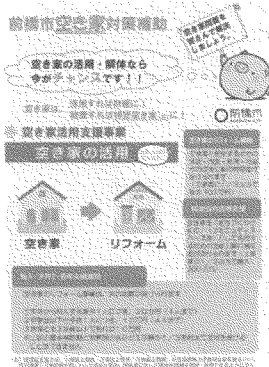


会議風景 →



### 空家を利活用したい方への支援

平成29年度空家等対策補助ガイドパンフレット ↓



↑前橋市の取り組みが掲載される。

**空家のリフォーム補助**：改修工事の補助金が受けられます（工事費の1/3以内、最大100万円）  
**特定目的活用支援**：コミュニティスペース等活用するための改修工事（1/3以内最大200万円）  
上記以外にもさまざまな空家に対する補助金が設定されている。

### 前橋市条例の特色

- ・事業者の責務・市民の責務
  - ・特定空家等以外の空家等の所有者への助言指導
  - ・所有者不明な空家等に係る緊急応急措置
- 前橋市空家等対策協議会（平成27年8月）  
策定までに3回の空家等対策協議会開催

### 感想

前橋市は空家利活用センターを設置し、情報を一元化する総合窓口あり、空家データベース作成のため実態調査を前橋工科大学へ委託し、実態把握だけでなく発生傾向の分析など、大学が持つノウハウを活かした研究にも取り組まれていた。

民間等と連携して取り組む前橋市の空家対策はととても参考になりました。

## ◎視察先 鹿沼市 7月13日木曜日

鹿沼市は栃木県の中心部からやや西南に位置し、首都圏東京から100km、県都宇都宮市の西に接し、面積が490,64km<sup>2</sup>、人口は97,395(29年4,1)である。



研修風景

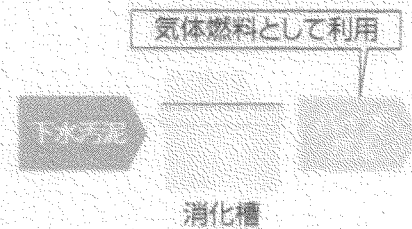


### 官民共同による下水道処理施設でのバイオマス発電事業について

説明者：環境部 下水道施設課 福田課長 施設維持係 湯沢係

#### ② バイオガスとは

汚水を処理する過程で発生する下水汚泥を、消化槽に約36℃で約30日間貯留し、発酵させます。この過程で有機物が分解し、メタンを主成分としたバイオガスが発生します。このガスは都市ガスなどと同じく気体燃料として利用することができます。



#### 事業の特色 -官民連携の事業-

鹿沼市がバイオガスを月島機械に供給するとともに、地域の未利用バイオマスの収集体制を構築し、バイオマスと下水汚泥の混合処理を行います。サンエコサーマルは、地域の未利用バイオマスの収集運搬と処理場への投入を行います。月島機械はバイオガスを利用して発電し、電気を電気事業者に売却します\*。

それぞれ得意分野を役割とすることで、長期安定的な事業を実施します。鹿沼市が当事業により得られる収入は、皆様下水道設備をより良くするなど、下水道事業に役立てています。また、発電するときに発生する廃熱を消化槽(大型の発酵槽)の加温に有効利用しています。

※再生可能エネルギー固定価格買取制度を活用して20年間継続します。

※ F I T = 固定価格買取制度

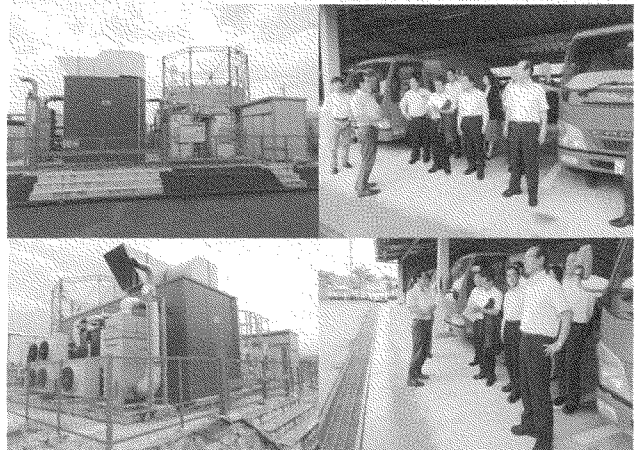
#### 鹿沼市の F I T 事業

- ・ 事業場所：黒川終末処理場
- ・ 発電規模：250kw 1台
- ・ 年間発電量：約160万kw  
(一般家庭 約450世帯相当)
- ・ 発電設備認定：2014年3月20日
- ・ 発電事業期間：2015年6月～20年間

F I T 発電事業は浄化槽汚泥・し尿・食品系バイオマスの混合消化を利用する。

#### 感想

本市でもぜひ前向きに検討すべき事業だと思う。



現地での説明風景

## ◎視察先：習志野市 7月14日金曜日

習志野市は千葉県北部に位置し、人口169,461人 面積20,97キロ㎡

### 1 水道水の普及PR事業（「ナラシドウォーター」の商品化）について

説明者：習志野市企業局：工務部供給課 三代川供給係長 業務部営業企画室 吉川主幹

## 水源は、地下水と江戸川表流水

千葉県北西部は豊富で良質な地下水に恵まれており、市営水道の水源は65%が地下水、残りは江戸川の表流水で、水の安定供給のため、長期的な展望に立った水源確保に取り組んでいると説明があった。

◎ナラシドウォーターは平成21年度から水道水を500ミリリットルのペットボトルに詰め製作し、イベント会場等で配布して市営水道の良さをPRしてきました。市民から「おいしい」と評判頂き、2016年2017年、国際的な品質評価機関で高く評価で、モンドセレクションのコンクールにおいて2年連続金賞を受賞しました。



購入希望者が多くなり、昨夏から販売を始めた。 ナラシドウォーター：ペットボトル500ml



水道局前で集合写真



研修風景



配水ポンプ（第2給水場）

第2給水場配水池

配水場での説明風景

☆感想 今回、建設委員会の行政視察で訪れた3市とも、いずれも先進的な取り組みがなされていた。

前橋市の空家対策、鹿沼市のバイオマス発電事業や習志野市の水道水のペットボトル化などどれをとっても素晴らしい成果を上げられていた。

当市も3市の取り組みを見習い研究・検討して欲しいものです。

## 建設委員会行政視察報告書

永田照明

1日目（平成29年7月12日（水））

視察場所 群馬県前橋市

視察時間 午後2時30分～午後4時00分

視察事項 前橋市の空き家対策について

### 研修感想

前橋市は空き家等の適正管理に関する条例を平成25年度に作成したが、平成27年度国の空家等対策の推進に関する特別措置法が施行された為に一部を改正、平成28年度、国の基本指針に即し、税情報の活用や罰則、行政代執行が可能になったことにより、「空家等対策の推進及び空家等の活用の促進に関する条例」を前橋市独自の空き家対策条例へと全部を改正。平成28年3月31日現在、建設部建築課の中に空き家の活用に関する事務を掌握するために、平成27年度、空き家利活用センターを設置し、同じく、空家等対策協議会は団体等を含め17人で構成し設置済み。尚、空家利活用センターの職員は住宅政策係長をトップとし、利活用相談担当2名、特定空家担当4名の6名を配置している。又、空家等対策協議会としては年5回協議会を開催する事が決まっている。市の空き家等対策補助は居住支援、特定目的、二世帯近居住宅建築、二世帯近居住宅改修、老朽空き家等対策補助金は工事費用の三分の一であるが、全ての工事には事前に空家利活用センターへ野相談が必要となります。補助金の目的により、工事費用上限100万円から工事費用最高200万円を超えない範囲での支給が可能となっています。又、支援事業の中で目を引くのが、転入・子育て・若年夫婦に可算がある事です。尚、国の空家等対策の推進に関する特別措置法施行後、空家等対策計画策定済みの市区町村は全国で63市区町村である。尚、九州管内では福岡県芦屋町・遠賀町、長崎県五島市、鹿児島県薩摩川内市の4ヶ所が条例を施行している。都城市も空き家対策条例がそろそろ必要かと考えます。



2日目（平成29年7月13日（木）

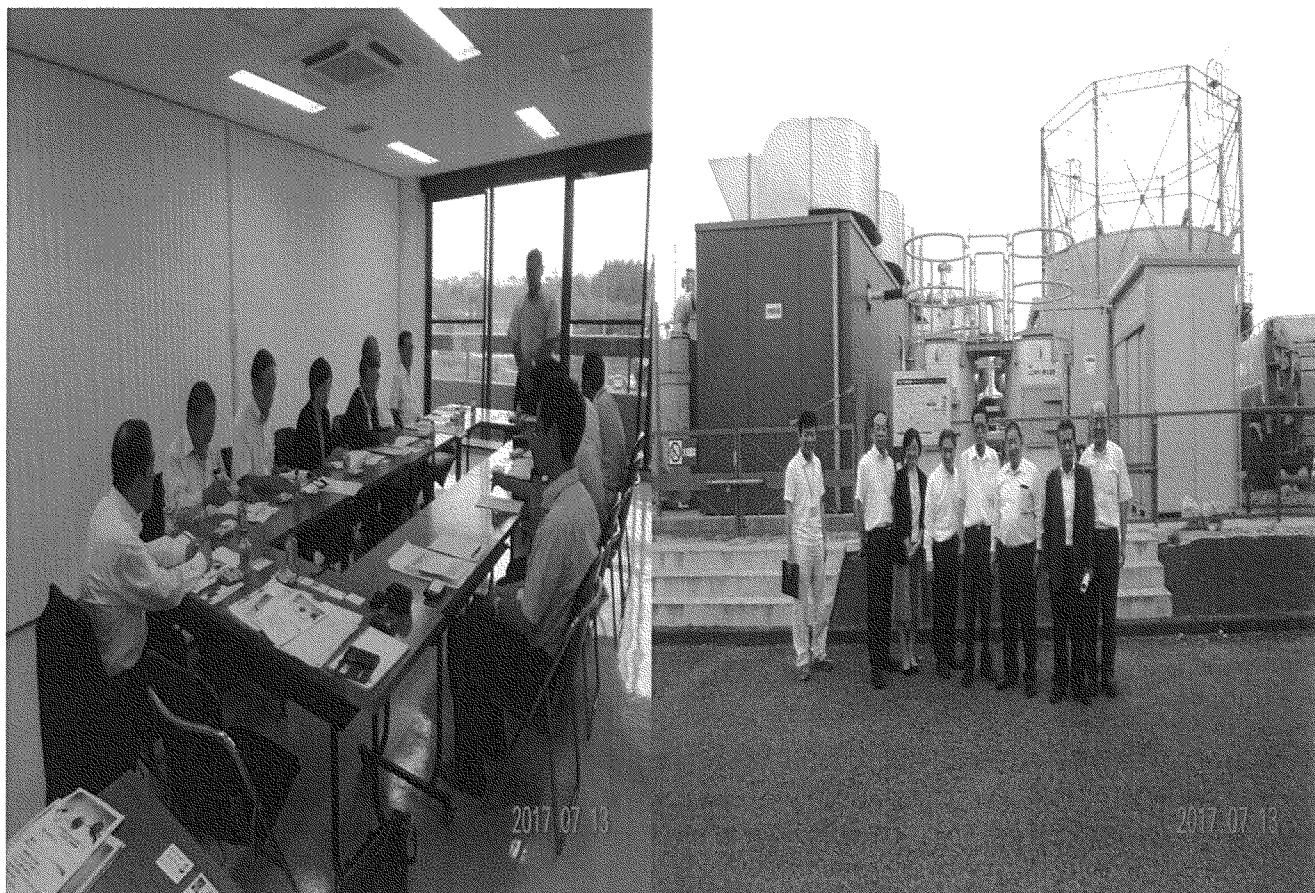
視察場所 栃木県鹿沼市

視察時間 午後1時00分 ～ 午後2時40分

視察事項 官民共同による下水道処理施設におけるバイオマス発電事業について

#### 研修感想

バイオマス発電事業は、鹿沼市と月島機械グループの官民共同事業で行い、鹿沼市の汚水を処理する過程で下水汚泥と一部食品系残渣を攪拌し、濃縮槽にお練り込まれ濃縮された汚泥は多量の有機物を含んで悪臭を放ち、有害ガスを発生させるので、密封した汚泥硝化槽に送り込み、30日間、約36度Cに温度を保ち、攪拌しながら有機物を分解させ、メタンガス等のガス、水分を取り除き安全無害な泥肥料にする。一方では、汚泥硝化槽で発生するバイオガス（消化ガス）は、硫化物を脱硫塔で取り除き、ガスタンクに貯められ、ボイラーとガス発電設備へと送られ、ここで発生した電気は電力会社へ再生可能エネルギー固定価格買い取り制度を活用し、1キロワット単価39円で月島機械グループが売電した中から、売電収入の15%を鹿沼市へ入金する。この事業は国土交通省が下水道革新的技術実証事業として推進し、機械設備は会社持ちで、機械設備を設置する敷地を提供し、市は売電手数料を貰う、全国的には設備費を考えない官民共同事業の方法が進められつつある。都城市に7月の第1週、月島機械グループ社員が機械設備の説明に来ているので、収入になるようであればこの事業に取り組んだらよいと考えます。



3日目（平成29年7月14日（金））

視察場所 千葉県習志野市

視察時間 午前9時30分～午前11時00分

視察事項 水道水のPR事業（ナラシドウォーター）の商品化について

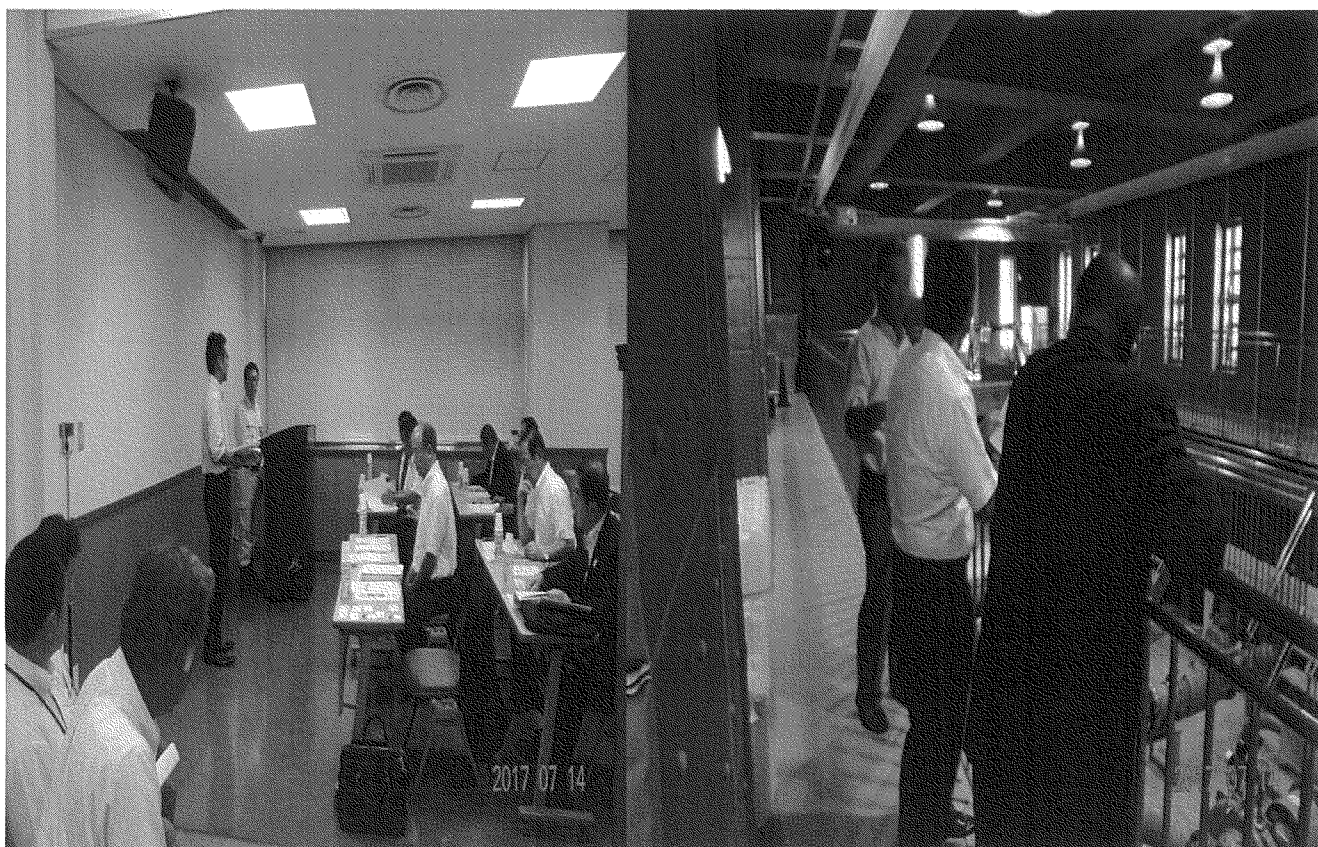
#### 研修感想

習志野市は限りある水質源の有効活用のために、水の需要はピーク時間と深夜では5～6倍の格差があるので、地下水のくみ上げ、北千葉広域水道企業団の受水から浄水、貯水、配水に至る設備をコンピューターによる遠方監視制御システムを導入し効率よく運転している。

良質な水を給水するために赤水発生の原因となる鉄・マンガンを除去するため急速ろ過装置を設置したところ、赤水発生が大幅に減少した。この結果を受け、昭和62年には第1給水場にも同装置を建設し、全給水区域をカバーできるようになった。市営水道の取水井は総数19本設置され、深さ180～250mの井戸から地下水を汲み上げている。市営水道の水は約65%が地下水、残りは江戸川の表流水です。尚、モンドセレクションはベルギー経済庁により創設され、品質評価国際機関としてブリュッセルに本部を置く。世界中の市販品を審査対象とし、1社から複数の応募も可能。それぞれ一定の基準をクリアした商品全てに、得点に応じて賞を認定している。習志野市企業局は、「お墨付きをえることで水道水離れを止めたかった。蛇口から直接飲める事を証明できた」と言われている。

ナラシドウォーター500ミリペットボトルラベルのコストは1本単価100円かかる、これを市開催のイベント会場で配布して来た結果、昨夏より購入希望者が多数いた事から販売を開始した。

私達も飲んでみましたが、これならモンドセレクションに都城市の水も出品出来るのではないかと考えます。





# 建設委員会 行政視察報告書

平成29年7月12日～14日

建設委員 神脇 清照

7月12日(水) 前橋市役所 (群馬県)

## 1. 空き家等対策事業について。

人口減少や核家族化、既存住宅の老朽化、社会的ニーズの変化などに伴い、全国どこでも空き家が深刻な問題になっている。そんな中で前橋市の空き家対策は特定空き家に対して、本年7月に県内で初めて略式代執行による徹ぎを実施し、又、民間等と連携し、「とにかくできることは全てやる!」と積極的な姿勢を取り組んでいる。

本市においても各種補助制度を導入し、空き家の利活用や定住促進等につなげる施策も実施しているが、効果という点ではなかなか厳しい状況にあり、今後の課題としては、補助制度の拡充や民間業者と一体とした取り組みなど、抜本的な対策を講じる必要がある。

7月13日(木) 鹿沼市役所 (栃木県)

## 1. 官民共同による下水道処理施設でのバイオマス発電事業について。

固定価格買取制度(FIT)を活用した消化ガス発電システムとして、固定買取単価(2017～2019年度がメタン発酵ガス、バイオマス由来)が3円/kWh(税抜)で最大20年間にわたり発電可能とある。

発電事業者の違いとして民設民営方式と公設公営方式があり、鹿沼市においては、表面では官民共同とされているが、実際は民間業者が建設、管理のすべてを任せ、市の役目としては土地の無償貸与をしている。(民間業者:月島機械(株))

宮崎県内においては宮崎市の宮崎処理場を月島機械が民設民営FIT事業を2015年4月から実施している。

2.

本市においても各種システムや事業におけるメリット、リスク等を十分に研究され、早期の取組みが望まれているのは、

7月14日(金) 習志野市(千葉)

1. 水道水のPR事業(ブランドウォーターの高品質化)について  
習志野企業局が供給する水道水をペットボトルに詰め、ブランドウォーターが国際的な品賞コンクール「2017年ワールドセレクション」において、2年連続金賞を受賞している。

水道水は、利根川水系の浄化された水に、市内各地の井戸水から採れた良質な地下水をブレンドしたもので、昨夏からお客様の購入希望により販売を開始している。

企業局員の知恵やアイデアで自然の恵みを活用する取組みは学ぶ点があり、我々都城市においても、各種事業でマンネリ化せず常に新しい事に挑戦することの大事さを身をもって感じたところだ。

視 察 研 修 報 告 書

1) 視察日程 平成29年7月12日(水)～7月15日(金)

2) 視察地 調査項目

7月12日(水) 群馬県前橋市 「空き家対策事業について」

3) 視察の感想

前橋市では(H25,7)にかけて、「空き家等の適正管理に関する条例」を施行され、管理不全な状態にある空き家に対し、助言・指導、勧告、命令を実地ただし、罰則や強制力はないことから、(H27.5)には「空き家等対策の推進に関する特別処置法」が施行され、税情報の活用や、過料(罰則)、行政代執行などが可能になっている。法と条例との整合を図るとともに、当市の空き家対策をより強力に推進されている、これには多くの市町村において、人口減少問題や核家族化、更には住宅の老朽化の現状にも取り組まれており、さらに従前は不動産の所有者にかかる固定資産税は、上物さえ建っていれば住んでいなくても「住宅用地の特例」により税金が安くなるケースもあり、これも空き家が放置される原因にもなっている。こうした空き家は、安全性や・防犯性の低下、防災力の低下、更にはゴミの不法投棄などによる衛生環境の悪化、景観の阻害など、生活環境を脅かすものとなっていることから、政府は平成27年5月に空き家等対策の推進に関する特別処置法を全面施行し、不適切な状態にある空き家などを「特定空き家等」として最終的には市町村長の権限で行政代執行を含む対応が可能となり前橋市では市長の権限により「特定空き家」の行政代執行を施行されている。又ここ10年間で3,4%の空き家率が増加傾向にある。これには現在の社会現象でもある、人口減少、高齢化問題、若い世代の県外流出も大きな課題であることから当市では空き家活用支援事業として、空き家のリフォーム補助や特定目的活用支援、(コミュニティス)改修工事の補助、転入・子育て・若者夫婦加算、更に2世代・同居住宅支援事業、空き家等除去費支援補助等多くの補助支援に取り組まれている。

4)視察の成果及び市政への反映

空き家利活用センターを設置、平成27年4月に空き家に関するあらゆる市民の相談を受けるための総合窓口を開設、従前は、環境衛生面での相談は環境部、利活用の相談は建設部と窓口が分かれていたようですが、窓口を建設部に一元化することにより市民の利便性が高まり、同年5月には不動産関連団体と「空き家の利活用の促進に関する協定」を締結し、7月には「空き家利活用ネットワーク」開始するとともに、空き家対策補助制度も導入され、人口減少対策も視野に入れ、空き家の利活用と定住促進をつなげる施策を実施し、とにかくできることは、積極的に取り組むとの事であると述べておられます、本市も今後近い将来空き家等も増加することは間違いないわけで、窓口の一元化や、空き家等対策協議会を中心に行政、各事業者、市民を巻き込んだ、取り組みが不可欠、重要な課題で1日も早い取り組みを。

①視察日程 7月13日(木) 視察地 栃木県鹿沼市

2)視察項目 「官民共同による下水道処理施設でのバイオマス発電事業について

### 3) 視察の感想

鹿沼市公共下水道事業で全体計画は、行政区域面積49,064ヘクタールのうち、四つの処理区を合わせて、下水道計画区域として1,781ヘクタール、計画人口62,450人を対象として策定されている。脱水乾燥システムによる下水汚泥の肥料化、燃料化の技術実証研究一つのシステムで利用用途に応じた乾燥汚泥の含水率調整が可能になる。また、官民連帯による創エネルギー・廃棄物処理事業は再生可能エネルギーの有効利用を図り、地球温暖化防止ならびに長期・安定的な地域エネルギー循環の実現に大きく貢献できる。

### 4)視察の成果及び市政への反映

官民連帯の事業で地域の未利用バイオマスの収集体制を構築し、バイオマスと下水汚泥の混合処理を行い、サンエコサマールは、地域の未利用バイオマスの収集運搬と処理場への投入を行う、民間事業者はバイオマスを利用して発電し、電気を電気事業者に売却し、売却の約15%を鹿沼市へ。九州ではFITを活用しているのは福岡。久留米市、長崎・大村、宮崎、3か所で取り組みされている。本市では処理場間に距離があるのでは、検討課題である。

1) 視察日程 7月14日(金) 視察地 千葉県習志野市

紹介され項目 水道水の普及PR事業「ナラシドウォーター」商品化について

### 3) 視察の感想

習志野市企業局が供給する水道水をペットボトルに詰めた、「ナラシドウォーター」が国際的な品質コンクール「2017年モンドセレクション」において2年連続金賞を受賞の紹介あり、「ナラシドウォーター」は、企業局の水道水を500ミリリットルのペットボトルに詰めたもので、市販はしてはいないが、平成21年度から制作し、ガス展などのイベント会場で配布して市営水道のよさをPRしている現況、水道水は、利根川水系の浄化された水に市内各地にある井戸から採れた良質な地下水30%をブレンドしたもので、以前より市民の皆様から「おいしい」と自慢の水道水を飲まさせていただきましたが、飲みなれていないせいか、本市の水道水がうまい。

### 3) 視察の成果及び市政への反映

昨年夏よりお客様からの購入希望の問い合わせを多数いただいたことから販売を開始されたとの事習志野市では、品質が国際的に評価されたことで励みになりより一層安心して飲めるおいしい水道水供給に取り組まれている、当市もキシマウォーターとして、手掛けては。